

NURSES FOR PEACE

2025年12月・2026年1月 最新情報



親愛なる同僚の皆様

2025年末、国際看護師協会（ICN）はNurses for Peace活動に関する最新情報を発表しました。それ以降も、看護師と保健医療システムに影響を与える世界的な危機の数と規模は拡大を続けています。

過去1か月間、ICNは複数の重大な情勢変化や人道状況に対応するため、看護協会やパートナーと連絡を取り、支援を行ってきました。これらの出来事は、紛争や危機の際に看護師が直面する課題と、その不可欠な役割の両方を浮き彫りにしています。

これらの情勢を踏まえ、ICNは最近の活動と取り組みを反映するため、Nurses for Peace最新情報を再度発表します。本文書の前半に新規および最新情報を記載し、その後に参考として前回発表した内容が続きます。（国際部追記：本アップデートは、2025年12月に公表後、1月に最新情報が追加され、再公表された）

> イランの看護師との連帯

ICNは、イランで多くの死者が出ており、看護師も影響を受けているとの報道に深い懸念を抱いています。ICNは、これらの報告の規模と深刻さ、そして保健医療システムと保健医療従事者に課せられている深刻な圧力について憂慮しています。

ICNはイラン看護協会と長年にわたる関係を築いており、イランの看護リーダーと長年定期的に対話を続けてきました。イランの看護師はICNのグローバルな会員組織において重要かつ貴重な存在であり、ICNのリーダーは経済的制約や不安定な情勢が保健医療の提供に与える影響など、看護師と保健医療システムが直面する重大な圧力について同僚と直接協議を重ねてきました。最近では、ICNハワード・カットン事務局長（CEO）がICNヘルシンキ大会においてイラン看護協会の代表者と会談し、看護師と広範な保健医療システムが直面する健康と経済の課題について議論を交わしました。

ICNハワード・カットンCEOは次のように述べました：

「紛争や緊張が高まる状況下では、保健医療システムと人権は極めて大きな重圧に直面し、保健医療従事者が直面する要求とリスクは急激に増大します。看護師は、自らの安全、専門職実践、及び権利へのリスクに直面しながらも、極めて困難な状況下でケアを提供し続けています。こうした最も暗い時期において、連帯と支援は極めて重要です。紛争地域や危機的状況下で働く看護師は、自分たちが孤立していないこと、そして世界の看護師3000万人のコミュニティが揺るぎなく共にいるという認識から、大きな力を得ているのです。」

状況が複雑かつセンシティブであることを認識しつつ、ICNは引き続きパートナーや会員協会とともに慎重に関与していきます。ICNはまた、困難な状況下における専門職開発と看護能力強化への継続的な取り組みの一環として、最近イランの看護師向け教育イニシアチブを支援しました。ICNは看護師が提供する不可欠なケアと、そのケアが提供される困難な状況を認識した上で、Nurses for Peaceを通じ、危機的状況下にある看護師を支援するために会員協会と連携を継続しています。

ICNは、深刻な困難の中でもケア、教育、専門職支援の責任を担い続けるイランの看護師および看護リーダーと連帯します。世界の看護コミュニティは、不確実な時期に保健医療サービスを維持する上で彼らが果たす責任ある行動、回復力、そして重要な役割を認識しています。

> エチオピア看護師協会（ENA）、ICN Nurses for Peace人道基金、ダイレクト・リリーフ



エチオピア看護師協会（ENA）、ICN Nurses for Peace人道基金、ダイレクト・リリーフの共同活動により、紛争後の保健医療における看護協会の強力な役割を示す人道医療物資支援活動が成功裏に実施されました。壊滅的なティグライ戦争からの復興途上にあるエチオピア・ティグライ州のアイダー病院に、命を救う医療物資の大型輸送が2回にわたり到着しました。輸送物資には化学療法薬、抗菌薬、麻酔薬などの重要医薬品が含まれており、これにより看護師をはじめとする保健医療従事者は、2020年以降同地域で提供されていなかった乳がん治療を含む喫緊の医療ニーズに対応できるようになります。

ENAは、税関及び政府の認可取得や、治安リスクのある山岳地帯を通じた安全な輸送といった課題を乗り越え、複雑な物資輸送を促進しました。さらにENAは、紛争の影響を受けたベニシヤングル・グムズ地域の専門的な治療を行う病院に焦点を当てたダイレクト・リリーフの支援を円滑にし、長期にわたる暴力と避難から回復するコミュニティに重要な生命線を提供しています。これらの活動は、コミュニティのニーズや実情に対する深い知識と信頼関係を基盤に、各国看護師協会が国際人道支援活動を促進し、現地で不可欠な人道支援主体としての役割を果たす実態を示しています。

> ベネズエラの看護師との連帯

ICNIは、最近の政治情勢と継続する危機を受けて、ベネズエラの看護師への連帯を表明するため、ベネズエラ看護協会と連絡を取ってきました。ICNIは、極めて困難な状況下で不可欠なケアを提供し続けるベネズエラの看護師が、世界の看護コミュニティの全面的な支援を受けていることを改めて表明するとともに、危機的状況下では看護師をはじめとする保健医療従事者が最も危険に晒される立場に置かれ、安全・尊厳・専門職の権利がより一層脅かされることを認識しています。

ICNホセ・ルイス・コボス・セラノ会長は次のように述べました：

““

ベネズエラの看護師は、極めて困難な状況下で不可欠なケアを提供し続けています。保健医療従事者や保健医療施設を保護する国際法、ならびに彼らが自由に発言し組織化する権利を完全に尊重しつつ、看護師の安全、尊厳、資源へのアクセスが確保されなければなりません。



> 悲劇と危機の時にける連帯

ここ数週間、ICNはクラン・モンタナでの火災やボンダイビーチでの襲撃などの悲劇的な事件を受けて、スイスとオーストラリアの会員看護協会にも連帯のメッセージを送りました。これらの注目すべき事件は、若い命の痛ましい損失をもたらし、緊急事態、危機、深刻な暴力状況における看護師をはじめとする保健医療専門職の重要性を改めて示しました。看護師は、保健医療サービスや病院が急速に逼迫し、時には限界点に達する状況の中で働き、被害者をケアするために自らを危険にさらすことがよくあります。ICNは、これらの事例、そしてその他の事例において、看護師、保健医療従事者、そして被災したコミュニティに対して、その勇気、専門職としての意識、そして悲劇への対応における重要な役割を称え、連帯の意を表しています。

ICNホセ・ルイス・コボス・セラノー会長からのメッセージ

2022年のウクライナ紛争勃発を受けて国際看護師協会（ICN）が[#NursesforPeace](#)を立ち上げたのは、切迫感と良心の発露でした。ICNの140を超える各国看護師協会と世界3,000万人の看護師が、平和と人間性、そして危機の最前線でケアにあたっている看護師のために、共に立ち上がるために何ができるかを問うたのです。

それ以来、ICN人道基金や、成長を続ける#NursesforPeace、拡大する[ダイレクト・リリーフ](#)との戦略的パートナーシップを通じて、この一丸となった決意は、今も続く行動へと進化を遂げています。紛争や人道的緊急事態の影響を受けているアフガニスタン、エチオピア、イスラエル、ヨルダン、レバノン、モーリタニア、ミャンマー、パレスチナ、ソマリランド、南スーダン、スーダン、ウクライナなど10カ国以上で、看護師に支援を届け、その声を世界に広げ、希望を支えてきました。これは決して象徴的な活動ではありません；あくまで実践的かつ道義的な活動であり、想像を絶するほど過酷な状況下で遂行されることも少なくない活動です。

#NursesforPeaceは、看護が専門職であると同時に、道徳的な力でもあることを思い出させてくれます。2026年に向けて、ICNはこれまでの成果を基盤として、連帯を強化し、活動範囲を拡大し、看護師と健康、平和の名のもとに活動を続けることを誓います。



ICN会長
ホセ・ルイス・コボス・セラノー

ICNIは日々、会員協会を通じて、看護師が、世界中で広範な苦しみを生み出し、保健医療システムを破壊する紛争・戦争・自然災害の激化に真っ先に対応している姿を目の当たりにしています。これらの悲劇によって深く傷つきながらも、看護師は勇敢にもコミュニティに癒しをもたらし続けています。

2025年を通じて、ICNIはあらゆるレベルで人道支援活動と#NursesforPeaceキャンペーンを深化・強化しました。これは、グローバルな政策活動から、想像を絶する課題に直面する看護師と各国看護師協会（NNAs）への直接支援まで多岐にわたり、初の紛争地域で実施される危機回復と対応のためのリーダーシッププログラム（ウクライナ）も含まれています。



ウクライナ保健省の外で多数の銃弾の跡の残る
焼け焦げた救急車に囲まれるICNIハワード・カットンCEO

ICNIは特にアフリカと中東において、NNAsとの新たなプロジェクトを支援してきました。これには、**現地の保健医療施設と、貧困や緊急事態の影響を受ける人々の健康と生活を改善するために80カ国以上で活動するICNIのパートナー団体であるダイレクト・リリーフとの連携**も含まれます。

ICNIは、**紛争地帯や災害地域において、自らの生命やウェルビーイングに対する危険な状況や容認できないリスクにもかかわらず、奉仕するコミュニティへのケア提供という使命を揺るぎなく果たし続ける、世界中の勇敢な看護師とNNAsの皆様**に、深い敬意と感謝を捧げます。ICNIは、世界中の看護師、NNAs、パートナーの継続的な連帯と寛大さをもって、希望と癒しに貢献するため、彼らの声を届けること、そして可能な限り影響力のある支援を提供することに尽力します。ICNIはあらゆる形態の暴力を非難し、平和を呼びかけます。

今回の最新情報では、世界中の看護師が深刻な困難の中で示したレジリエンスを紹介し、#NursesforPeace、ICNI人道基金、ダイレクト・リリーフとの連携、そしてハイレベルなアドボカシー活動が、最も困難な状況下で働く看護師をどのように支援しているかについてご説明します。

グローバル政策とアドボカシー

I アドボカシーと行動要請

ICNホセ・ルイス・コボス・セラーノ会長は今年初め、国連アントニオ・グテーレス事務局長に書簡を送り、中東を含む紛争の影響を受ける地域における人道危機と保健医療への攻撃を終わらせるための緊急行動を要請しました。ICN会長は、戦地で働く看護師たちからの報告を紹介し、こうした継続的な攻撃がもたらす恐ろしい影響、そして攻撃や飢餓の犠牲者（多くの場合、子ども、妊婦、高齢者など最も脆弱な人々）を絶えず目の当たりにし、治療する深いトラウマについて語りました。ICN会長は、ICNが国連と連携し、保健医療における平和と保護を支援する用意があることを改めて表明しました。

これは、**ICNの統治機関が採択した緊急決議**に続くもので、保健医療従事者、患者、保健医療施設を保護することを義務付ける**国際人道法（IHL）に基づく義務の完全な遵守を全ての当事者に求めるとともに、違反行為に対する説明責任を求め、継続的かつ増加する保健医療への攻撃を強く非難する**ものでした。

紛争・危機下における看護と、平和な社会への看護師の多大な貢献は、**今年のICN大会における核心的なテーマ**であり、これらのトピックに特化した複数のセッションが開催され、影響を受けた看護師とNNAの声が多く伝えられました。



世界保健機関（WHO）世界保健総会において、ICNはパレスチナを含む紛争地域における保健医療の状況について強力な介入を行い、国連総会を含む主要な国際フォーラムに対し、紛争下における看護師の保護を強く訴えました。

Ⅰ 国連による紛争下における看護の国際的評価と記録



健康権に関する国連特別報告者はICNの#NursesforPeaceキャンペーンを評価

ICNの#NursesforPeaceキャンペーンは、健康権に関する国連特別報告者により、「必須の人道的資源、メンタルヘルス支援、緊急事態への備えおよびリーダーシップ研修」を提供する優れた実践例として評価されました。これは国連総会に提出された報告書「保健医療従事者：健康権の誓約者および擁護者」に記録されました。

ICNはまた、特別報告者が2025年に人権理事会へ提出した報告書に向け、紛争や危機という非常に大きな課題の中で世界中の看護師が健康権を守っている包括的なエビデンスを提出しました。ICNは、レバノン、パレスチナ、ナイジェリア、タンザニア、ソマリランド、エチオピア、モリタニア、スーダン、ケニア、南スーダンといった人道危機地域において、恐ろしい困難にもかかわらずケアを提供し続けている看護師の実体験と声を、各国看護協会からの直接の証言とともに紹介しました。これには、勤務中に負傷したり死亡したりした看護師、ケアを提供するために家族から離れて現地で暮らすことを余儀なくされた看護師、壊滅的な資源不足に直面した看護師の悲劇的なストーリーが含まれていました。

ICNはまた、所信声明「紛争下の保健医療：看護の見解（Health care in conflict: the nursing perspective）」を今年更新しました。紛争下における保健医療保護連合（SHCC）の創設メンバーとして、ICNは同連合の2025年報告書「暴力のエピデミック（Epidemic of Violence）」に貢献しました。この報告書は、昨年、保健医療に対する悲惨な攻撃件数が過去最多（3,600件）を記録し、また、単一紛争における保健医療への攻撃件数としては史上最多（ガザ地区で1,300件超）を記録したほか、ウクライナ、レバノン、ミャンマー、スーダンなど各国で保健医療を標的とした重大な攻撃が発生したことを示しています。



この政策とエビデンスに基づく取り組みにより、世界が最も困難な危機に直面する中で、**看護の声が国際的な意思決定の最高レベルに確実に届くようになり、保健医療従事者と彼らが奉仕するコミュニティの健康、平和、そして保護が推進されます。**

最近の連帯と支援に関するメッセージ

ICNIは、あらゆる種類の紛争、危機、災害の影響を受ける看護師および看護協会と、それらが発生するあらゆる場所で絶えず連絡を取っています。ICNI倫理綱領に基づき、看護師は宗教や民族を問わずすべての人々をケアし、ICNIはあらゆる形態の暴力、差別、憎悪を非難します。

ICNIは、最前線で働く看護師や影響を受けた人々への連帯、そして公平な人道的原則への取り組みを示すため、最近では複数の国々に以下のようなメッセージを送りました：

- ミャンマー、タイ、アフガニスタンにおける地震；フィリピンと台湾における台風；インドネシア、タイ、スリランカでの洪水；ジャマイカでのハリケーン・メリッサ；香港での火災；そしてポルトガルでの悲劇的な路面電車事故など、事故や自然災害による壊滅的な影響と、それらへの対応における看護師の重要な役割を認識する書簡。
- 12月にオーストラリアのボンダイビーチで発生した銃乱射事件について、ユダヤ人コミュニティの多くのメンバーが悲劇的な死を遂げたことを認識し、看護師、犠牲者、そして影響を受けたコミュニティに連帯の意を表し、影響を受けた人々、そして看護師がこの悲劇への対応の最前線に再び立ったことを認識するメッセージ。
- イスラエルにおける10月7日の攻撃から2年を迎え、1,200人以上の悲劇的な死を認め、暴力的な襲撃を非難する声明。
- スーダンにおける保健医療従事者及び保健医療施設に対する恐ろしい攻撃を非難する声明。
- ガザにおける深刻な人道危機と飢餓の脅威に対し妨げられない支援を求め、保健医療施設への攻撃を非難し、ガザのパレスチナ看護協会のリーダーの死を悼む声明。ICNIは一貫して恒久的な平和を要請。

I NURSES FOR PEACEの主な取り組み

ICNの#NursesforPeaceキャンペーンは、同僚への支援を惜しみなく示した世界中の看護師と看護協会の連帯のおかげで、危機の影響を受ける地域で活動する看護師に対し、直接的かつ包括的な支援を提供し続けています。

現在の取り組みの広範さと影響力を示す事例：

スーダン看護師協会（SNO）は、ホワイトナイル州における継続的な紛争とコレラ患者の急増によって引き起こされた深刻な公衆衛生上の課題に対処するため、積極的な役割を果たしています。Nurses for Peaceの支援を受け、SNOは、高度な資格を持ち、保健医療従事者を訓練し、コミュニティへの働きかけを主導し、保健省と緊密に連携する上級看護師で構成される緊急対応チーム（ERT）を立ち上げました。ダイレクト・リリーフは現在、SNOと連携し、緊急医療機器と物資の提供を行っています。

SNOのモワファグ・ハッサン会長は、#NursesforPeaceイニシアチブを通じてICNの支援を称え、ICNホセ・ルイス・コボス・セラノ会長とハワード・カットンCEOに表彰状を授与しました。ICNはこの表彰を大変光栄に感じ、SNOに心からの感謝を伝えました。



SNOモワファグ・ハッサン会長はICNホセ・ルイス・コボス・セラノ会長とハワード・カットンCEOへ表彰楯を授与

ICNはまた、高度なシミュレーションラボとオンライン学習プラットフォームを通じて看護師を訓練する国家イニシアチブであるスーダン・エクセレンシー・センターの開発を支援しています。保健省との協力で実施される同センターは、深刻な紛争と人道危機・国内外への避難危機に直面する同国において、看護教育と看護労働力の能力強化を目指しています。

SNOは、北ダルフール州エル・ファッシャーにおける患者と保健医療従事者への凄惨な殺害・拉致、ならびにコルドファン州における保健医療と民間人への継続的かつ壊滅的な攻撃・残虐行為について、痛ましい証言を行いました。ICNはこれらの違反行為を最も強い言葉で非難するとともに、最も深刻な危険の中でも看護師の安全、権利、そして重要な役割を守るという決意を改めて表明しました。



パレスチナでは、ICNはパレスチナ看護助産協会（PNMA）およびダイレクト・リリーフと提携し、ガザ地区およびヨルダン川西岸地区の看護師に対する緊急経済支援プログラムを開始しました。これらの看護師は現在、仮設避難所で生活し、十分な食料や清潔な水の確保に苦労しながら、給与を受け取ることなく病院で極めて困難な状況下で働き続けています。本プロジェクトによる支援により、看護師は食料・飲料水・避難所改善物資などの必需品を購入できるようになります。この支援は、深刻な状況下でも重要な保健医療サービスを維持する助けとなります。特筆すべきは、給与未払いなど自らの重大な課題に直面しながらも、ヨルダン川西岸地区の看護師がPNMAを通じてこの取り組みに多額の寄付を行ったことであり、これは驚くべき職業的連帯を示しています。ICNは紛争下における平和、停戦、人道支援、看護師及び保健医療従事者の保護を継続的に訴え続けています。



左から：ガザのアル・シファ医療複合施設のジャダラ・ムスタファ・アル・シャフィー内科部門看護部長、爆撃を受けた施設の前庭にて；戦争中の長時間勤務で子どもと離れざるを得ない悲痛な思いを語るガザのナセル病院のハニン・ザヒール助産師

ICNはウクライナへの支援を継続しています。財政支援や緊急時対応研修に加え、**ICNは最近、危機対応と復興のための看護リーダーシップ（NLCRR）プログラムを開始しました。**このプログラムはNurses for Peaceが全額資金提供し、ICNが紛争地域で初めて実施する取り組みです。このプログラムは、勇気と才能ある看護師リーダーを支援・育成し、進行中の戦争への対応だけでなく復興活動への準備も行うものです。私たちの目標は、このプログラムをウクライナで拡大し、ICNの人道支援及びリーダーシップ開発活動の中核として、他の紛争・災害地域の看護師にも展開することです。



ICNチームはウクライナ保健省および様々な看護協会と会合を持ち、ウクライナ看護リーダーシップ全国会議への参加を含め、さらなる支援分野を特定しました。看護師からは、保健医療施設及びスタッフが毎日攻撃に直面し続けている**戦争下での看護の日々の状況に関する切実な最新情報**が提供されました。戦争はケア物資の供給に深刻な影響を与え、紛争で命を落とした患者、近隣住民、家族からの悲嘆と喪失に絶えず向き合うスタッフのメンタルヘルスに壊滅的な打撃を与えています。



ダイレクト・リリーフとの連携



ICNとダイレクト・リリーフの連携は拡大を続けており、ICN人道支援調整担当者は紛争の影響を受ける地域における重要な現地緊急対応組織として、各国看護協会と常に連絡を取っています。いくつかの新たな取り組みが進行中です。

エチオピア看護師協会（ENA）は、紛争の影響を受けたティグライ州とベニシャンゲル・グムズ州の紹介状が必要な2つの病院に焦点を当てたダイレクト・リリーフからの支援を促進しました。これらの施設は、長期にわたる暴力と避難から回復するコミュニティにとって重要な生命線です。ENAの尽力により、これらの病院の看護師はダイレクト・リリーフからの必須医薬品の持続可能な供給により、コミュニティへの支援体制を強化できる見込みです。

モーリタニア看護協会（MNA）は、保健省およびダイレクト・リリーフと連携し、全国的な医薬品供給網の改善に取り組んでいます。現在、難民および国内避難民（IDP）に対する公平な保健医療アクセスは、地理的な分散と社会格差によって非常に複雑化しており、遠隔地で最も深刻な状況です。この供給網イニシアチブは、特にプライマリ・ヘルスケアレベルにおける必須医薬品の流通と利用可能性を改善することで、これらの障壁を克服することを目的としています。これにより、へき地で最初の接点となることが多い看護師が、より効果的なケアを自立して提供できるよう支援し、モーリタニア国民と国内の難民が質の高い保健医療サービスにアクセスし、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジに向けて前進するという目標を支えます。

ソマリランドでは、看護師は高い妊産婦死亡率や、季節的な干ばつによる子どもの栄養不良の悪化、すでに脆弱な保健医療サービスのさらなる逼迫など、多面的な課題に直面しています。ソマリランド看護助産協会（SLNMA）はダイレクト・リリーフと積極的に連携し、インフラが限られサービスが行き届いていないコミュニティを支援するへき地の保健医療施設における看護用品の深刻な不足に対応しています。先日、ダイレクト・リリーフの人道支援物資がハルガイサに到着し、遠隔地の看護師主導の保健センターに必須の医療物資を届けました。血圧計や体温計といった基本的な器具さえ不足しがちな施設にとって、これは命綱です。



南スーダン看護師助産師協会（SSNAMA）は、同国唯一の紹介状が必要な小児病院であるジュバのアル・サバーハ小児病院とダイレクト・リリーフをつなぎました。同病院は必須医薬品の深刻な不足に直面しています。ダイレクト・リリーフは、看護師が患者に提供できるサービスの向上に寄与する必須医薬品を供給し、小児病院の支援活動を行います。

ICN災害基金

アフガニスタン看護師協会（ANA）は、2,000人以上の負傷者と3,000人以上の死者を出したマザリシャリフの壊滅的な地震に対応しており、継続的な余震により精神的苦痛が広がっています。ANAのボランティアは、100世帯向けの50張りのテントと、緊急医療・副木・医薬品を提供する医療テントを備えた救援キャンプを設置しました。災害対応能力強化のため、ANAはICNの支援によるプロジェクトを提案しました。このプロジェクトでは、クナル州とナンガルハル州の30人の看護師を対象に、応急処置、外傷管理、感染症管理、心理社会的カウンセリング、防災対策、一時救命処置の研修を実施します。看護学校との連携により研修が制度化されます。



エチオピアでは、エチオピア看護師協会（ENA）とICNが、エチオピア保健省、ジンカ総合病院の上級看護師、地域保健局、エチオピア公衆衛生研究所、コミュニティ代表者の協力を得て、感染症大流行への備えと最近のマールブルグウイルス大流行への対応を強化するため、**最前線の能力強化のための連帯（SSFC）プロジェクト**を実施しています。本プロジェクトは、感染予防、感染者の早期発見、ウイルス性出血熱の臨床管理について、**2,000人以上の看護師を訓練**することを目的としています。また、个人防护具（PPE）の提供、プロトコルの実施と調整メカニズムの改善も行います。



ENAは、マールブルグウイルスに感染し亡くなった看護師の悲劇的な報告を共有しました。これは、リスクの高い環境で看護師が直面する危険と犠牲を痛烈に思い起こさせるものです。ENAは希望のストーリーも共有しており、重篤な状態だった子どもが完全に回復した事例も含まれます。マールブルグウイルスの致死率が最大88%に達することから、この回復は驚くべきものです。写真には、その子どもとケアを行った看護チームと一緒に写っています。

ICN人道支援調整



ICNの人道支援チームは、深刻な人道的ニーズが生じている環境下で活動する現地の多くの看護協会とも連携を取っています。

これには、人材と医療資源の不足、継続的な不安定さ、保健医療施設への重圧、そして戦争中に保健医療インフラが被った損害に直面し、全国の専門職との強固な連携構築に取り組むシリアのイドリブ看護協会（NSI）が含まれます。

ICNの人道支援チームはモザンビーク看護協会（ANEMO）とも会談し、同協会は最近の政治的暴力事件で負傷した市民を支援するため看護師が地域支援ネットワークを構築した感動的なストーリーを共有しました。ANEMOはサイクロン・チドとサイクロン・ジュードによる被災後に看護師が直面した深刻な課題についても言及しました。同協会は保健省と連携し、必須医療支援・サポートの提供に取り組んでおり、看護師の労働条件改善に向けた取り組みも進められています。

コンゴ民主共和国看護協会（ONIC）は、同国東部での戦争、治安・インフラ問題、膨大な数の避難民、子どもの栄養失調、最近のエムポックス流行時の感染予防・管理用具の不足など、コンゴ民主共和国の看護師が直面する圧倒的な課題について重要な知見を提供しました。また、栄養失調の予防・治療のための地域におけるヘルスプロモーションにおいて看護師が果たす重要な役割についても共有しました。

ICNはまた、NNAsが直面する固有の人道的ニーズや成果を理解するためにアメリカ地域の看護協会とも連携しています。多くのNNAsは、人口移動、気候変動、社会経済的危機、健康上の緊急事態、暴力に関連する課題について議論してきました。エルサルバドル看護協会（ANES）との会合では、経済的制約や低賃金にもかかわらず、看護師のエンパワメントと教育機会の提供が必要であることが強調され、NNAはこれに取り組んでいます。アルゼンチンでは、看護師は都市と地方の著しい格差や遠隔地での深刻な人手不足に直面している一方、経済的制約や不均等な評価が専門職開発やリーダーシップを妨げています。

チリでは、国際移動と脆弱な立場にある人々が、へき地の保健医療格差や地震・山火事による災害リスクに加え、都市部の暴力や麻薬密売と相まって増大する課題となっています。エクアドルでは、看護師は人員不足と劣悪な条件により過重な業務負担と精神的負担に直面している一方、遠隔地のアマゾン地域における先住民コミュニティでは看護プログラムが不足しており、異文化間保健医療イニシアチブへの緊急のニーズが生じています。ホンジュラスでは、高い失業率により多くの看護師が国際移動や非正規雇用を余儀なくされており、一方で、気候変動関連の災害と政治的不安定が脆弱性を悪化させ、災害対策の妨げとなっています。パナマの看護師は遠隔地で困難な条件下で働き、極度の貧困層に奉仕しています。また、洪水と環境悪化が保健医療サービスを逼迫させ、高度な教育への限られたアクセスが専門職としての成長を阻害しています。ICNは来年以降も、こうした課題に対処するためアメリカ地域全体のNNAsを引き続き支援します。

希望と平和を持続させる： 世界中の看護師への揺るぎない誓い

こうした痛ましい経験と、世界中の看護師の勇気と影響力の感動的な事例は、危機や紛争の影響を受けた看護労働力と人々を支援することの差し迫った重要性をさらに強く裏付けています。

2026年に向けて、ICNは#NursesforPeaceと人道支援活動を継続・拡大し、各国看護協会やダイレクト・リリーフなどのパートナーと緊密に連携することを強く約束します。

世界中の看護師の皆様の連帯と支援に深く感謝申し上げます。寄付がなければ、こうした活動は実現できません。ICNは、この重要な活動を支えるため、人道基金および#NursesforPeaceキャンペーンへの支援を歓迎します。緊急資金援助、必需品供給、災害・リーダーシップ研修、メンタルヘルス支援など、あらゆる貢献が危機の最前線で働く看護師を支えています。

私たちは力を合わせて、世界の最も困難な環境においても、平和、健康、そして癒しに貢献できます。

To support ICN's #NursesforPeace
Campaign [Donate here](#)



ICNハワード・カットンCEOは、2025年ICN大会において世界中の看護師と共に立ち、戦争・紛争・災害の影響を受けた同僚への連帯を示した